

八幡西区

校区の 作戦会議 (協議体) ガイドブック

住民主体による支え合いを考える

発行

八幡西区社会福祉協議会

社会福祉法人 北九州市社会福祉協議会 地域福祉部 八幡西区事務所

〒806-8510 北九州市八幡西区黒崎三丁目15番3号
TEL:093-642-5035 FAX:093-642-5077

八幡西区役所 保健福祉課

いのちをつなぐネットワーク係

〒806-8510 北九州市八幡西区黒崎三丁目15番3号
TEL:093-642-1334(直通) FAX:093-621-0090

令和2年3月

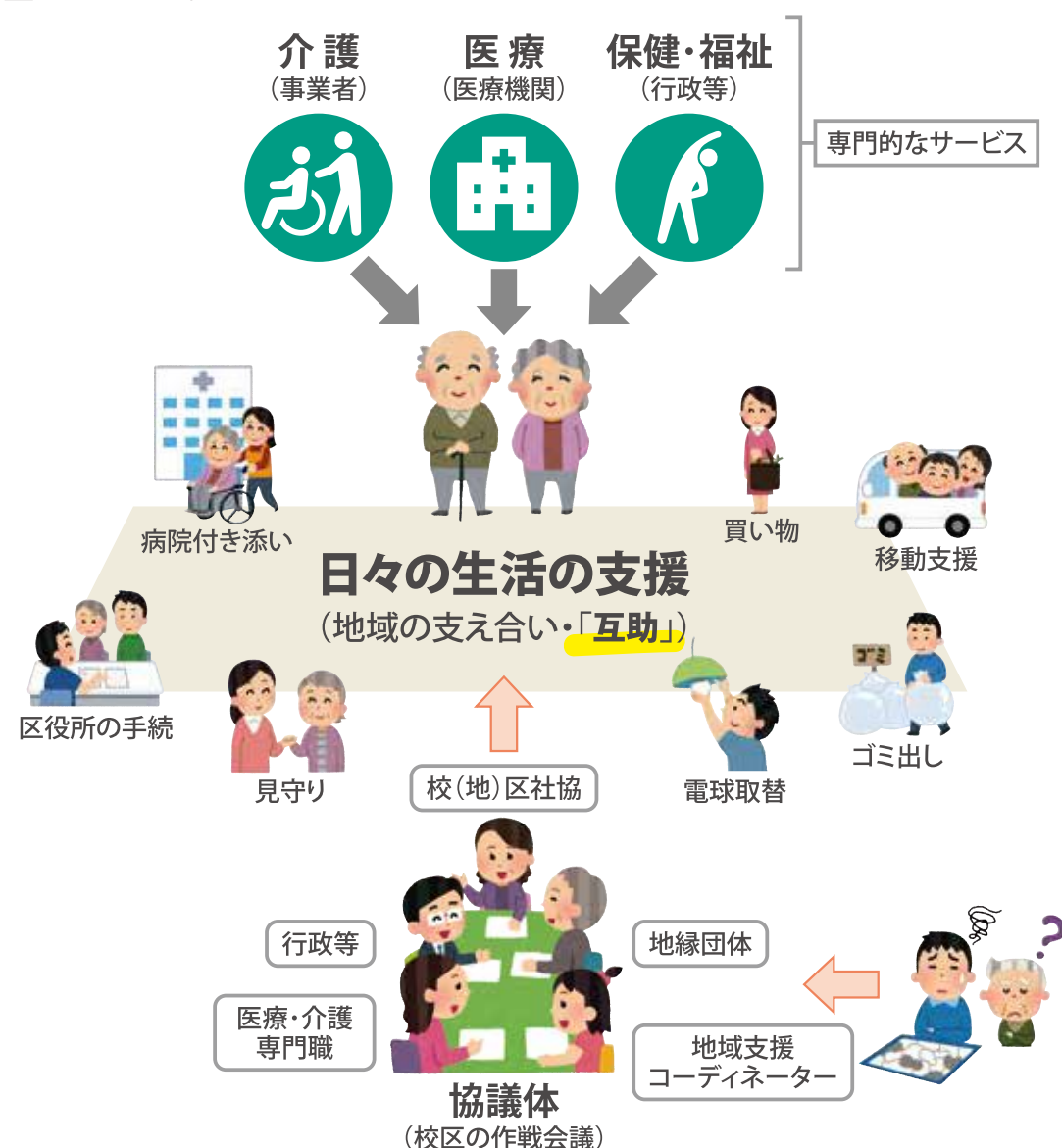


はじめに

皆さんは、「地域包括ケアシステム」という言葉を聞いたことがありますか？
これは、たとえ重度の要介護状態になっても、最後まで住み慣れた地域・自宅で、自分らしい暮らしを続けることができるよう国が強力に進めているしくみのことです。

このしくみを地域において具体化するためには、「介護」、「医療」、「保健・福祉」などの専門的なサービスに加えて、「住まい」と「生活支援・介護予防」の分野の取り組みが重要であり、この分野では住民を主体とした地域における互助、つまり地域づくりが必要不可欠です。

平成27(2015)年の介護保険法改正では、介護が必要になっても地域で暮らし続けるためには医療・介護の制度だけではなく、日頃から地域での見守り、助け合いが必要ということで、それらを考える「場」として「協議体」が生まれました。



北九州市では、この見守り、助け合い、話し合いのしくみをつくる地域福祉活動である「ふれあいネットワーク活動」が平成6(1994)年から行われており、八幡西区でも各校(地)区社会福祉協議会がさまざまな活動に取り組み実績をあげています。

そこで当区では、「協議体(本市では「校区の作戦会議」と呼びます)」を新たに作るのではなく、「ふれあいネットワーク活動」に関するさまざまな課題を話し合う「連絡調整会議」こそが「校区の作戦会議」になり得るものと考え、その上で「ふれあいネットワーク活動」をさらに充実させるために、「校区の作戦会議」に地域団体、介護保険サービス事業者、医療機関、行政などがメンバーとして参加し、将来にわたって息の長い活動が可能となるしくみづくりを目指しています。

校(地)区社協のふれあいネットワーク活動

～ 3つのしくみ ～

見守り

福祉協力員が、民生委員・児童委員等と連携し、見守り・訪問活動を行います。

助け合い

日常の困りごとのうち、簡易な住民同士でできる範囲の助け合い活動を行います。

話し合い

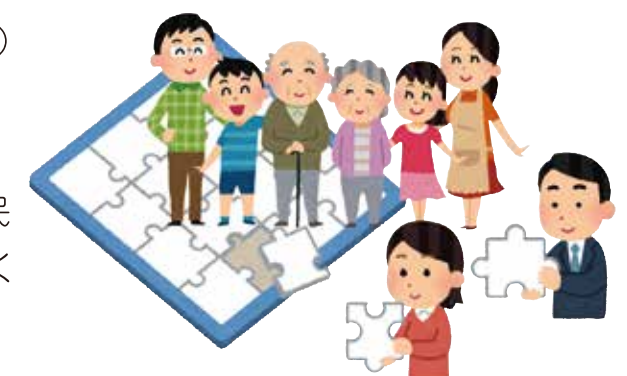
地域で把握した問題を関係機関・団体と一緒に話し合い、解決方法などを検討します。

八幡西区では、平成30年度は6校(地)区、令和元年度は11校(地)区の社会福祉協議会が「校区の作戦会議」としての活動をスタートさせました。それぞれの地域の実情にあったメンバーが参加し、それぞれの地域ならではの特徴的な活動を行っています。

このガイドブックは、「校区の作戦会議」に関心を持っていただき、これからの地域づくりへの取り組みに活用していただくことを目的として、各校(地)区における実際の活動事例等を紹介しています。

本書をきっかけとして、それぞれの地域で住民の皆さんが安心して暮らせる支え合いのまちづくりが進むことを願っています。

個人の悩みは、地域の悩み
その解決は、地域を変える!



校区の作戦会議(協議体)とは・・・

校区の作戦会議のイメージ

- ふれあいネットワーク活動(見守り、助け合い、話し合い)が充実している。
- リーダー、役員クラスが校区の作戦会議の趣旨(地域課題を把握し、持続可能な活動となるための方策をみんなで考えるということ)を理解している。
- 地域課題の解決に向けた方策を検討するにあたり、外部の機関・団体(介護保険サービス事業者、医療機関など)が参加している。
- 地域ならではの特徴的な取り組み(地域の宝)がある。



通いの場(サロン)



世代間交流



介護保険サービス事業者や
医療機関との連携

校区の作戦会議のメリット

- 地域の宝を発見する(知る)ことにより、行政サービスでは対応できない地域ならではの課題解決に向けた取り組みが可能となる。
- 校区の作戦会議のメンバーには、行政や区社協も入ることとなり、これまで以上にタイムリーかつ身近な形での福祉サービスなどの情報共有が可能になる。
- サロン活動等地域福祉活動において、介護保険サービス事業者や医療機関(市民センター顧問医など)の協力が得られやすくなる。
- 上記の取り組みにより、地域福祉活動を行うメンバーの意識が高まり、より活動が活発になることに加え、持続可能な取り組みが可能となる。

もくじ

はじめに P. 1～P. 2

校区の作戦会議(協議体)とは P. 3

校区の作戦会議



赤坂地区の作戦会議 P. 5

折尾西校区の作戦会議 P. 6

八枝校区の作戦会議 P. 7



穴生地区の作戦会議 P. 8

熊西校区の作戦会議 P. 9

黒崎地区の作戦会議 P.10

陣原地区の作戦会議 P.11

陣山校区の作戦会議 P.12

筒井校区の作戦会議 P.13

引野校区の作戦会議 P.14



池田校区の作戦会議 P.15

大原校区の作戦会議 P.16

楠橋校区の作戦会議 P.17

上津役校区の作戦会議 P.18

木屋瀬校区の作戦会議 P.19

塔野校区の作戦会議 P.20

中尾校区の作戦会議 P.21

八幡西区の生活支援体制整備事業のイメージ P.22

参考用語集 P.22

校区データは令和元年12月1日現在の住民基本台帳によるものです。
★マークの用語はP.22の参考用語集をご覧ください。

No.01 赤坂地区の作戦会議

スローガン

元気で明るい福祉のまち 赤坂
～地域がげんきで活発な福祉のまちづくり～

校区データ

人口
6,854名

高齢化率
34.8%

連絡調整会議

- 開催頻度／奇数月
- 構成メンバー／○地区社協・福祉協力員 ○まち協 ○民生委員
○市民センター館長 ○区役所保健福祉課 ○区社協
- 主な内容／部会ごとの活動報告、地域活動や行事の協議・調整を行っています。

まちの活性化「B級グルメ自慢大会」



- 《目的》食を通して赤坂地区の人々がふれあい、絆を深め、町の活性化を図るものです。
- 《参加者》校区社協、各自治区会、まち協、中学校PTA、小学生、食生活改善推進員、福祉施設、地域住民…来場者300名
- 《参加チーム》12チーム
- 《場所》市民センターおよび星和台西公園
- 《内容》●チームで自慢の料理を持ち寄り、味を競う。
●各料理は100円または150円

地域内で活動する仲間同士、切磋琢磨し合い、地域を元気にしています。

介護予防健康指導「健康持続隊」

- 《開始》平成30年5月
- 《開催日》第2第4火曜日 16:00～17:00
- 《場所》福祉施設サポートセンター本城
- 《対象者》地域住民
- 《内容》施設職員の理学療法士★や作業療法士★が体力測定、介護予防運動を行っています。

福祉施設にリハビリの空いた時間を開放してもらえないか打診したところ、無償で使わせてもらえることとなり、地域の方に大変喜ばれています。



地域参加のきっかけ「古希祭」

- 《開始》平成31年2月
- 《場所》市民センター
- 《対象者》70歳
- 《内容》食事と演芸で、古希を迎えた方々を地域でお祝いします。

普段外出しない人が地域に興味を持ち、外に出るきっかけになればいいと思い開催しました。



No.02 折尾西校区の作戦会議

スローガン

みんなが安心して暮らせるまち・長く住みたいまち折尾西
～サロン活動の定期的な展開～

校区データ

人口
11,200名

高齢化率
27.5%

連絡調整会議

- 開催頻度／偶数月
- 構成メンバー／○校区社協・福祉協力員 ○まち協 ○自治区会 ○民生委員
○小学校校長 ○消防 ○地域密着型介護老人福祉施設 サングリーンアネモス
○市民センター館長 ○区役所保健福祉課 ○区社協
- 主な内容／①班会議の報告・質疑・問題点を整理し、解決策を検討しています。
②各種事業の連絡、協議をしています。 ③事務局から事業の経過報告をしています。

協議深し!! 連絡調整会議



①事前準備、資料づくり

各班の班会議や活動、課題などの報告書を作成し、市民センターの校区社協所定の場所へ会議の1週間前までに提出します。

事務局において、班会議報告書として一覧にまとめる他、各種事業案などの資料を作成し、会議メンバーの情報共有を図り、論点を整理した資料で効果的な協議ができるよう準備します。

②配席にも工夫

机を口の字に配置し、メンバーの顔が見えて発言しやすい環境づくり(一人一人が主役)を行っています。

次世代楽しみ!! ウェルクラブ活動

子ども達が福祉活動(地域の見守りや訪問活動)を体験するウェルクラブ活動★を平成18年に開始しました。

《対象者》主に小学校4年生～6年生 約20人

【募集方法】小学校校長に募集を依頼し、4年生以上を対象に案内を配付

《開催日》夏休み中心(年間活動も計画中)



令和元年度は、福祉施設と連携し、施設見学その他、車椅子の介助体験、高齢者とのふれあいなどを通じ、日常生活や学校では学べない困っている方への心がけや支援方法を学習しました。

地域は共・友!! 小学校や福祉施設とタイアップ

連絡調整会議への出席や助言をいただく他、

【小学校】

一人暮らし高齢者への「年賀状」文面書き、ウェルクラブ会員募集 など。

【福祉施設】

ウェルクラブ活動や福祉協力員などの研修の場の提供 など。



未来!! 小地域福祉活動計画づくり

これまでの活動を検証し、関係団体を巻き込んだ取り組みを進めるとともに、折尾西校区のスローガンである“みんなが安心して暮らせるまち・長く住みたいまち”にするため、5年先を見据えた「小地域福祉活動計画」に取り組んでいます。



No.03 八枝校区の作戦会議

スローガン

見守り!ふれあい! 支えあい! 安心な住みよいまちづくり
～サロン活動の充実・助け合い運動～

連絡調整
会議

- 開催頻度／毎月
- 構成メンバー／○校区社協・福祉協力員 ○自治区会 ○まち協 ○民生委員
○地域密着型介護老人福祉施設 サングリーンアネモス
○区役所保健福祉課 ○区社協
- 主な内容／自治区会ごとの活動報告や行事案内、ふれあいネットワーク部会のサロン活動報告、小地域福祉活動計画の進捗などを話し合います。

校区データ

人口
10,301名

高齢化率
23.7%

地域で支え合う八枝 ～地区ごとの作戦1 通いの場 作戦2 見守り・助け合い活動



【サロン】

永犬丸・泉ヶ浦・鷹見台地区に計4ヶ所サロンを設置。おしゃべりやゲーム、小物づくりをし、通いの場づくりとなっています。

《開催場所》地区ごと(永犬丸2ヶ所、泉ヶ浦、鷹見台)

《開催頻度》毎月1回

《対象者》65歳以上の方

【昼食会】

福祉協力員が愛情のこもった手作り料理を振る舞います。

《開催場所》地区ごと(永犬丸、泉ヶ浦、鷹見台)

《開催頻度》年1回

《対象者》65歳以上一人暮らしの方

八枝・永犬丸買い物支援バス

《利用対象者》泉ヶ浦地区、鷹見台地区の地域住民

《運行日時》毎週木曜日 14:00～16:00

八枝・永犬丸の地域には山坂が多い地区があり、最寄りの店まで遠く買い物に困っている現状があったので、平成26年度より地域と行政の協働事業で買い物バスの運行がスタートしました。泉ヶ浦地域、鷹見台地域とスーパー間をバス1便で巡回しています。

地域のコミュニティの場、安否確認に役立っており、福祉協力員もサポーターとして協力しています。



【茶話会】

お茶、コーヒー、お菓子を出し、見守りにも役立っています。

《開催場所》地区ごと(永犬丸、泉ヶ浦、鷹見台)

《開催頻度》年2回

《対象者》65歳以上一人暮らしの方

【訪問】

毎月、福祉協力員が2人1組で65歳以上一人暮らしのお宅を訪問しています。75歳以上の二人暮らしの方には「お元気ですか?」のチラシをポスティング、歳末のふれあい訪問では、お花を配布しています。

【助け合い活動】

ボランティアの協力のもと電球交換や包丁研ぎなど日常生活でのちょっとした手助けを行っています。依頼を受けた福祉協力員がボランティアにつないでます。



No.04 穴生地区の作戦会議

スローガン

みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくりをめざして
～ふれあいネットワーク事業の推進～

連絡調整
会議

- 開催頻度／毎月
- 構成メンバー／○まち協 ○自治区会 ○地区社協 ○民生委員
○市民センター館長 ○市民センター顧問医 ○区役所保健福祉課 ○区社協
- 主な内容／町内会ごとに、担当民生委員が代表で見守り活動報告を行います。必要に応じて、区役所保健福祉課などへ相談し、連携して活動しています。また、市民センター顧問医が毎年出席し、見守りが必要な世帯の状況などを情報共有しています。

校区データ

人口
13,010名

高齢化率
28.2%



地縁団体が強固な連携で見守る

【穴生地区と地区社協の歴史】

穴生地区は昭和30年代初めに、市の区画整理事業と筑豊電鉄の開通により、急速に都市化した住宅地です。昭和37年に穴生公民館(現 市民センター)が新設され、この場所を拠点に自治区会・婦人会・子ども会・長生会(老人クラブ)などの活動が活発になりました。

穴生地区社協は昭和42年に結成され、各団体、学校関係などと、横の連絡を密にする役割りを果たしてきました。ふれあいネットワーク活動(見守り・助け合い・話し合いのしくみ)をスタートして26年目を迎えます。現在に続くきめ細かい見守り体制は、長い時間をかけて培われました。年末の恒例行事「ふれあい餅つき大会」でつくたての餅を470世帯以上の高齢者へ配付できるのは、このような歴史ある穴生地区の団結力があってこそです。



【サロン活動】

市民センターで開催している「大人のサロン」は地域の高齢者が自由に過ごし、会話を楽しむことを目的としています。保健師による血圧測定や健康相談も同時開催しています。

年に数回近隣の「八幡特別支援学校★」高等部と協働し、生徒の接客実習の場として協力しています。地域共生社会を目指した取り組みが進んでいます。



No.05 熊西校区の作戦会議

スローガン

挨拶が飛び交うまち 熊西
～「熊西校区に住んで良かった」を実感できるまちづくり～

校区データ

人口
7,890名

高齢化率
24.1%

連絡調整会議

- 開催頻度／毎月
- 構成メンバー／○校区社協 ○民生委員 ○区役所保健福祉課 ○区社協
- 主な内容／ サロン活動や、困りごとお手伝いなどの事業報告、小地域福祉活動計画の進捗などを話し合います。

地域の助け合い!「困りごとお手伝い」事業

《目的》 「みんなが支え合うまち熊西」を基本理念として、一人暮らしの高齢者や身体の不自由な方を見守り、支え、安心して暮らせるまちづくりを推進するために実施している助け合いのボランティア活動です。

《対象者》 校区在住の65歳以上高齢者世帯又は身体の不自由な方

《活動者》 校区社協、校区内ボランティアなど

《時間》 原則、午前中2時間以内

《受付》 市民センター

《対応できる作業》

- (1) 宅地内の除草及び清掃
- (2) 屋内の家具類の移動
- (3) 蛍光灯、電球の交換
- (4) 粗大ごみ、古紙の搬出
- (5) その他簡易作業

高齢者宅の庭の除草・清掃



作業前



作業後



作業後写真

校区内 北部・南部でサロンを開催!!

《会場》 皇后崎公園年長者いこいの家 茶売団地集会所

《日時》 第3水曜13:00～15:00(皇后崎)
第2木曜13:00～15:00(茶売団地)

《対象》 地域の高齢者など(どなたでも)

《内容》 茶話会・小物づくり・脳トレ・ストレッチなど

熊西校区は南北に長く、市民センターまで歩いて行くことが難しい高齢者も多いため、校区の北部・南部でサロンを開催しています。おしゃれをして会場まで歩いてくると、みんなでおしゃべりすることは最高の介護予防です!



No.06 黒崎地区の作戦会議

スローガン

誰もが安心して暮らせる支え合いのまちづくり
～できるだけ多くの住人が地域に参加できる雰囲気づくりを推進～

校区データ

人口
9,878名

高齢化率
28.2%

連絡調整会議

- 開催頻度／毎月
- 構成メンバー／○地区社協・福祉協力員 ○民生委員 ○消防 ○警察
○NPO法人 あいの会 ○障害福祉サービス等指定事業所 インクル八千代
○あじさい保育所所長 ○障害福祉サービス等指定事業所 ジョブサポートセンター黒崎
○障害福祉サービス等指定事業所 ウェルビー黒崎駅前センター
○黒崎松快園デイサービスセンター ○市民センター館長
○区役所保健福祉課 ○区社協 など
- 主な内容／ 多数の団体や専門職が約50名集い、それぞれの立場から情報を持ち寄ります。見守り活動報告や地域課題を情報共有し、話し合う場となっています。

“作戦会議”で元気な地域をつくる



地域全体で情報・課題共有

《会議内容・活動(例)》

- 見守り活動の中で見つけた心配な高齢者の相談について、ケアマネ、介護施設職員から助言をもらいます。
- 会議のメンバーである消防や警察、地域包括支援センター、区社協職員などがサロンで講師として参加しています。
- 地区社協の活動に、障害者福祉施設の利用者が積極的に参加し交流を深めています。

写真は消防音楽隊の演奏、カラーガード隊の演技。
令和2年は、地域の高等学校 吹奏楽部に演奏の依頼をしています! 耳の遠くなった方にも楽しめる内容になっています。



一人暮らし年長者交歓会

毎年開催している地域に住む一人暮らし高齢者を対象とした交歓会には、100名以上が出席します!

ボランティア部や吹奏楽部の学生、地域のボランティアなど含めると総勢200名以上の大規模な催しです。

- 足腰の悪い方にも、どうすれば快適に過ごしてもらえるか?行き帰りはどうするか?
 - 耳が遠い方にも楽しんでもらえるプログラム内容は?
 - わかりやすい受付方法や席順は?
 - 民生委員、福祉協力員の役割分担、タイムテーブル など役員会、連絡調整会議できめ細かく話し合っています。
- 作戦会議のメンバーである区役所保健福祉課や、施設職員も参加し「地域全体」で福祉のまちづくりを推進していることを象徴する行事です。

No.07 陣原地区の作戦会議

スローガン

支えたり 支えられたり 地域友好の輪
～安心・安全のまちづくり～

校区データ

人口
5,977名

高齢化率
25.0%

連絡調整 会議

●開催頻度／毎月

●構成メンバー／○地区社協・福祉協力員 ○民生委員
○陣原地区老人クラブ連合会 亀山会
○まち協 ○区役所保健福祉課 ○区社協

●主な内容／ 地区を4ブロックに分け、見守りについて話し合いの場を持ちます(グループミーティング)。友愛訪問を実施している亀山会や、まち協の福祉健康委員会のメンバーも参加し、情報共有を行います。

地域全体で見守りの輪を広げられるよう定期的に福祉の研修会も開催します。

(過去の研修テーマ) ●在宅医療と介護について

●いのちの電話について(傾聴)

●防災について など



《日時》毎月1日、16日、その他

《会場》亀山会館、東公園いこいの家、市民センター

《内容》折り紙、体操、茶話会、料理、季節行事など。

多くの方に参加してもらうため、亀山会と連携したり、地域の新聞や市民センター館報への掲載など広報にも力を入れています。

地域行事で 「地域の輪づくり」!



【福祉もちつき大会】

《日時》1月上旬～中旬頃 8:00～

《会場》旗頭神社 境内

《内容》地区社協、まち協、自治区会、公民館、亀山会、民生委員など地域が一体となって開催するもちつき大会は中学校野球部生徒、地域の介護保険サービス事業所なども参加し、10:00から始まる「ふるまいもち」には行列ができるほどです。

白餅と餡餅をセットにしたものを、地域の一人暮らし高齢者に配付しています。



多くの人が楽しめるサロン活動へ



No.08 陣山校区の作戦会議

スローガン

みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり
～年長者のサロン活動を中心に福祉のまちづくりを進める～

校区データ

人口
5,189名

高齢化率
36.8%

連絡調整 会議

●開催頻度／偶数月

●構成メンバー／○校区社協・福祉協力員 ○民生委員 ○消防 ○警察
○市民センター館長 ○区役所保健福祉課 ○区社協

●主な内容／①各町内の福祉協力員による、見守り対象世帯数及び訪問結果の報告と、訪問時にわかった世帯が抱える課題の解決に向けた話し合いをしています。
②その他の地域課題の提起及び課題解決のための話し合いをしています。

<例示>

●課題の提起

スピナートさくら通り店が運行する、買い物送迎バスが廃止になると聞いた。(福祉協力員)

●課題解決のための話し合い

次の会議にスピナートさくら通り店の店長をお招きしました。そして送迎バス存続への思いをお伝えしたところ、「当分の間、廃止を見合わせます」との嬉しいご返事をいただきました。さらに、商品の宅配サービスを実施するとの新提案もあり、買い物に不自由な高齢者が多い清納地区の福祉協力員が、訪問時に商品のチラシを配布することになりました。

(注)お店のチラシは市民センターに届けられ、担当の福祉協力員が館内で配布準備をすることは、問題ないということです。



町内会ごとの「きめ細かい見守り」と「課題解決力」



【福祉協力員研修】

校区の全福祉協力員約100名を対象に、年に一度、研修を開催しています。「地域福祉権利擁護事業について」「認知症への理解を深める」「これからの在宅医療・介護について」などを企画し、地域福祉を推進していく上で必要な知識等を身につける機会を作っています。質疑応答では毎回多くの質問が出ており、熱のこもった研修となっています。



【サロン活動の充実に向けて】

『校区全ての地域に歩いて行けるサロンを』という理念のもと、町内会単位のサロン活動を実施しています!

福祉協力員を対象とした、「脳トレ・シナプソロジー★講座」などサロン運営に役立つ講座を企画し、さらなる充実へ向けた取り組みを行っています。



No.09 筒井校区の作戦会議

スローガン

助け合えるまち、筒井

～高齢化が進む中、多世代交流を図り、互助のシステムを作れるように～

校区データ

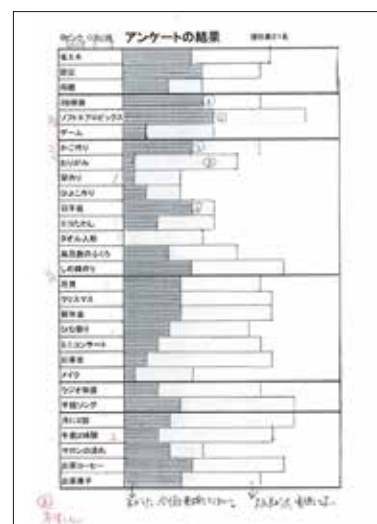
人口
4,809名

高齢化率
23.7%

連絡調整
会議

- 開催頻度／年4回
- 構成メンバー／○校区社協・福祉協力員 ○民生委員 ○中学校校長
○学童クラブ所長 ○市民センター館長 ○区役所保健福祉課 ○区社協 など
- 主な内容／ 児童関係者も多く会議に招き、高齢者だけでなく子どもにも目を向けた活動を目指しているのが筒井の特徴です。
令和2年2月からは、新たに介護老人福祉施設「聖ヨゼフの園」、グループホーム「いきいき桜苑」の職員も参加し、より充実した会議を目指していきます。

誰もが集えるサロンを目指して



アンケート集計(一部)



サロン実施報告書(抜粋)



【お客様にしない! 全員が主役のサロン】

- サロンでは必ず年度末にアンケートを実施・集計し、来年度の計画へ活かしています。「お世話する人」「される人」に分かるのではなく、どんなサロンにしていきたいかを参加者全員で考えます。「皆で作り上げる」サロンを継続し、参加者は年々増加しています。
- 毎回カラー写真付きの「サロン報告書」を作成し、参加者数(男女比)、内容、参加者の反応などを記録しています。役員会での振り返りの際などに役立てています。

【筒井ふれあいサロン】

《日 程》月2回(第2・4木曜日)10:00～

《会 場》市民センター

《特 徴》「赤ちゃんから高齢者まで」誰でも気軽に集える居場所です。より多くの人が楽しめるよう、毎回異なるプログラムを実施しています。

《令和元年度 プログラム》

- 地域のクリニックに学ぶロコモ予防体操
- お茶を楽しむ
- クリスマスケーキを作ろう
- ソフトエアロビクス★
- かごづくり
- 雛祭りの折り紙
- やさしい気功
- 「笑いは健康の万能薬」講座
- 消費生活センターの詐欺の話し
- 爪の健康
- 「LGBT」について
- カップケーキづくり など



キャンドルリレー



クリスマスケーキをつくらう



読み聞かせ



お茶を楽しむ

No.10 引野校区の作戦会議

スローガン

人が繋がる支え合いのまち引野校区

～ふれあいネットワーク事業の推進～

校区データ

人口
7,064名

高齢化率
22.9%

連絡調整
会議

- 開催頻度／偶数月
- 構成メンバー／○校区社協・福祉協力員 ○民生委員
○認知症対応型通所施設 お里の家 きらめき養福寺 ○社会福祉法人 もやい聖友会
○市民センター館長 ○区役所保健福祉課 ○区社協
- 主な内容／ 事業報告、見守り活動報告を行い、必要に応じて行政につなぎます。活動の課題を挙げ、高齢者福祉施設職員と意見交換を行います。
＜例示＞●サロンのマンネリ化をどうすれば良いか。
●実際にサロンの講師として依頼し、認知症や介護予防体操を学ぶ など
会議でアイデアを生み出し、実行する仕組みが出来ています。

「散歩クラブ」と「サロン活動」で健康づくり



平日は毎日ラジオ体操、そのあとコースに分かれ歩く「散歩クラブ」は健康づくりにうってつけです。

季節に合わせたイベントウォークの他、ボランティア活動(ゴミ拾いや花植え・除草、特別支援学級★や児童養護施設★との交流など)を行います。



市民センターと区民館を拠点にサロン活動を行っています。ふれあい訪問対象者の中でも、特に引きこもりがちな高齢者を対象に、毎回違うプログラム(脳トレ、歌、健康講座、ロコモ体操、ハンドベル、小物づくりなど)で楽しく介護予防を行う集いの場となっています。

行方不明者捜索模擬訓練で「迷っても安心」なまち!



「お里の家 きらめき養福寺」と協力し、行方不明者捜索模擬訓練を実施しています。認知症についての勉強会を重ね、今年度で3回目となりました。毎年ルールを変更し、様々な状況に対応できるよう工夫しています。「認知症になっても・道に迷っても安心」な優しいまちづくりが進んでいます!



No.11 池田校区の作戦会議

スローガン

地域住民を対象にした健康で安心できる風土づくり

～ ①ふれあいネットワーク事業の活性化と見守り活動の充実
②世代間交流事業・ふれあい昼食会への継続的な支援 ～

校区データ

人口
7,751名

高齢化率
32.7%

連絡調整
会議

- 開催頻度／年4回
- 構成メンバー／○校区社協・福祉協力員 ○民生委員 ○区役所保健福祉課 ○区社協
- 主な内容／ 班ごと(自治区会単位)の見守り活動やサロン活動の報告、地域課題などを話し合います。



地域課題解決の 3つの仕組みづくり～今後の展望～

仕組み1. 地域で解決できる課題

地域で解決できる課題は、民生委員、福祉協力員、自治区会、シニアクラブが協力・連携し、地域で解決する組織をつくっていきます。

仕組み2. 地域で解決できない課題

地域で解決が困難な場合は、連絡調整会議で専門職に参加していただき、協議・解決につなげていきます。

仕組み3. 迅速・効率的に組み上げる組織づくり

地域の要望、課題を効率的に組み上げるシステムをみんなで話し合っていきます。

その場しのぎではなく、1つ1つの事例を共有し、見える化していくことで、地域の課題解決力につなげていきます。

地域の健康と福祉の風土づくり

地域全体の健康と福祉の風土をつくり、認知症やひきこもりなど地域の様々な福祉課題に取り組んでおり、住民を対象とした福祉講座を開催しています。



地域の高齢者福祉施設などの関係機関が講師になるなど、連携・協働しながら地域の健康と福祉の質の底上げに努めています。

班ごとに特色ある活動報告

畑地域

●福祉協力員が一人暮らし高齢者宅の見守り活動を行っています。何かあれば、関係機関へつないでいます。

石坂地域

●高齢者の困りごととして、電球交換の相談があるが、対応が難しいケースも発生しています。
●毎月第1月曜日に民生委員と福祉協力員で見守り訪問を行っています。皆さん元気で、主に会話を楽しんでいます。

上香月地域

●福祉協力員9名で一人暮らし高齢者宅をふれあい訪問しています。

馬場山地域

●福祉協力員の畑で1,000本のさつまいもの苗から育てた芋で福祉協力員が料理を作り、地域住民でふれあい交歓会を開催しています。余った芋は地域住民へ配っています。

馬場山東地域

●ボランティアグループ「綿の会」が75歳以上の一人暮らし高齢者宅を訪問し、安否状況を確認しています。
●サロン活動では、健康体操を行い、福祉協力員が指導をしています。また、特別養護老人ホーム倫尚園の職員が毎回、食中毒や夏バテ、脳梗塞についてなどの健康講座を行っています。

馬場山金剛地域

●この地域は市営住宅が立ち並んでいます。毎月第3、4木曜日に見守り対象者の方を含め、住民の皆さんで清掃活動を行い、同時に町内会費の徴収も行います。清掃活動が難しい高齢者も出てきてもらい、世間話だけでもするように声かけを行い、出てきていない人については安否確認を行っています。
●福祉協力員の細やかな見守り活動により、この10年間は、孤独死0名です。
●特別養護老人ホーム倫尚園、高齢者複合施設ウエル馬場山の介護支援専門員と情報交換・連携をしています。

No.12 大原校区の作戦会議

スローガン

目配り気配り思いやりの福祉のまちづくり

～一人暮らしの高齢者の見守りと安全な福祉のまちづくり～

校区データ

人口
3,810名

高齢化率
30.9%

連絡調整
会議

- 開催頻度／毎月
- 構成メンバー／○校区社協・福祉協力員 ○民生委員 ○まち協 ○自治区会
○市民センター館長 ○区役所保健福祉課 ○区社協
- 主な内容／ 班ごと(自治区会単位)の見守り活動やサロン活動の報告、地域課題などを話し合います。

大原ほっこり朝市始動!!

【買物支援:大原ほっこり朝市】

《日時》毎週火曜日 10:30～11:30

《場所》大原団地第一集会所

《協力団体》○校区社協 ○自治区会

○JA北九 ○有清水福祉サービス

○区役所保健福祉課 ○区社協

大原地区は近くにスーパーがなく、多くの方が買い物に困っていました。

そこで、JAの移動購買車を、大原団地に呼び込むことができないか、地域住民の要望に耳を傾けながら、役員会や連絡調整会議で協議を重ねた結果、令和元年10月1日より、「大原ほっこり朝市」を開始することができました。



住民同士のつながりの場が誕生!

【朝市の一画に休憩所を設置】

(有)清水福祉サービスに校区の作戦会議のメンバーに加入していただき、朝市の一画に「ほっこり休憩所」を設置しました。

ゆっくりお喋りすることができ、住民同士の繋がりや情報共有の場となっています。介護相談などは(有)清水福祉サービスが対応しています。

閉じこもりがちの方も顔を出すようになり、見守り訪問活動の負担軽減になっています。

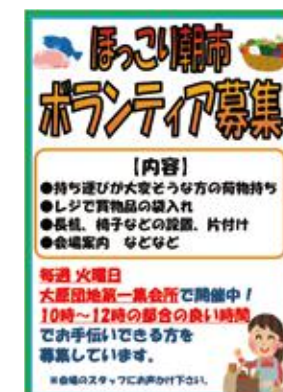
町内会長も協力参加し、地域の輪が広がっています。



毎回約100名が来場しており、
地域が本当に買い物支援を
必要としていたと実感!

【ここが課題!】

会場設営や、会場案内、持ち運びが大変そうな方の荷物持ちなど、福祉協力員が行っていますが、まだまだボランティアが必要です。



No.13 楠橋校区の作戦会議

スローガン

公助・共助・自助で強まる地域づくり
～ふれあいネットワーク活動の充実～

校区データ

人口
6,142名

高齢化率
35.3%

連絡調整 会議

- 開催頻度／毎月
- 構成メンバー／○まち協 ○校区社協 ○自治区会 ○PTA ○市民センター館長
○区役所保健福祉課 ○区社協
※まちづくり協議会の保健福祉部が楠橋校区社協となります。
- 主な内容／ 部会ごとに活動報告や地域情報などの共有、地域課題について話し合います。

地域カルテづくりで多団体と課題について話し合う



かかし誕生!!!



【地域カルテづくりで作成したかかし】

ゴミ出しマナーや交通事故の注意喚起などを表記した「かかし」を各自治区会に設置しました。定期的に衣替え、表記文言を変えています。

ぜひ、探してみてください!!

【地域カルテづくり】

様々な立場の住民同士が、地域情報や課題を共有し、それらの課題の解決方法を話し合い、住民主体で地域づくりを促進する事業です。平成29年度に実施し、「買い物支援」「環境衛生」「防犯」「町内会加入促進」の4つの重点課題を参加者全員で共有し、解決に向けての新たな取り組みを検討しました。

作戦会議のモデルとして自治区会長が発表



「通いの場づくり」「助け合いづくり」「サービスづくり」を行っている茶屋の原団地自治区会を校区の作戦会議のモデルとして、どのような活動をしているのかを発表していただき、校区全体で「校区の作戦会議」のイメージを共有しました。

No.14 上津役校区の作戦会議

スローガン

みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり
～①自治区単位での高齢者居場所づくり「サロン」開設 ②次世代の福祉協力員育成～

校区データ

人口
12,367名

高齢化率
30.3%

連絡調整 会議

- 開催頻度／奇数月
- 構成メンバー／○校区社協・福祉協力員 ○まち協 ○民生委員 ○自治区会
○上津役南地区シニアクラブ ○デイサービスセンター つなぐ
○小規模多機能ホーム きらめき上の原 ○ワールドデイサービスセンター
○特定施設入居者生活介護有料老人ホーム こうじゃくの杜 ○(有)清水福祉サービス
○社会福祉法人 風の森 ○八幡在宅医療・介護連携支援センター
○市民センター館長 ○区役所保健福祉課 ○区社協
- 主な内容／ これまで校区社協のみで行われていた連絡調整会議を校区の作戦会議とし、構成メンバーの見直しを行いました。班ごと(自治区会単位)の見守り活動やサロン活動の報告を行い、そこで出た課題を共有するとともに解決に向けて多団体で話し合います。

八幡あいあんネットと連携し、医療介護専門職との情報交換や活動に対する助言をもらう体制をつくり、今後の地域活動の質の向上につなげていきます。

※八幡あいあんネット：在宅医療・介護連携支援センターが中心となって、地縁組織や地域住民と医療・介護の専門職をつなげ、地域の福祉課題の解決を図っていくものです。

他団体と横断的な連携を目指す



地域と医療介護専門職の多職種連携(上津役会議)

【上津役校区の作戦会議】

- ①ふれあいネットワークが行う見守り活動をベースに福祉課題を解決する場として、充実させていきます。
- ②自治区単位でのふれあいネットワーク活動は、サロン活動をはじめとする見守り活動に要支援1,2の方々を受け入れていきます。

【これからの展望】

- ①居場所づくりは高齢者が気軽に歩いて行ける集会所や介護福祉施設などで開催していく予定です。
- ②医療介護専門職の多職種連携による校区の作戦会議の充実を図ります。



地域活動者と医療介護関係者との意見交換

No.15 木屋瀬校区の作戦会議

スローガン

「みんながすこしずつ」力を出し合おう
～みんなが、安心して暮らせる支え合いのまちづくり～

校区データ

人口
7,530名

高齢化率
29.9%

連絡調整
会議

- 開催頻度／偶数月
- 構成メンバー／○校区社協・福祉協力員 ○民生委員 ○消防 ○警察
○区役所保健福祉課 ○区社協
- 主な内容／ 班ごと(自治区会単位)の見守り活動やサロン活動の報告、地域課題などを話し合います。

見守り活動や地域課題を丁寧に話し合う



連絡調整会議で「高齢者が増えてきた」との報告が多いことから、地域で認知症高齢者について理解を深め、関わり方を学ぶため、研修会を開催したり、行方不明者捜索声かけ模擬訓練を行っています。

また、「洪水時には校区の大半が浸水するため、不安だ」との意見があり、地域全体で防災について改めて考えることになりました。

介護専門職による寸劇



木屋瀬校区ハザードマップ



地域課題に対して専門職と連携して備える

【行方不明者捜索声かけ模擬訓練】

医療法人 西田医院 湧水館職員より、認知症についての説明、声かけの方法などを寸劇で分かりやすく教わり、チームで行方不明者役の方の捜索、声かけ、本部への連絡の訓練を行いました。

また、平成30年度の行方不明者捜索声かけ模擬訓練では、野面公民館と大正区公民館の2つの拠点で同時に実施しました。野面公民館で医療法人 西田医院 湧水館職員が認知症についての説明、実演を行い、その様子を大正区公民館でライブ中継し、各拠点で認知症について学び、より身近な圏域で訓練を行うことができました。

【住民参加型災害図上訓練：DIG】

木屋瀬校区は遠賀川、筈尾川、金剛川、黒川と河川が多く、大半が洪水による浸水想定区域となっています。

そのため、災害時要配慮者(特に高齢者や障害者)へのサポートを想定して、消防署と連携し、DIG(住民参加型災害図上訓練)を行いました。

浸水想定区域や冠水場所、避難ルートなどの確認を校区社協、木屋瀬校区安全パトロール隊、木屋瀬老人クラブ連合会、木屋瀬東老人クラブ連合会の皆さんで行い、地域全体で防災意識を高めました。

No.16 塔野校区の作戦会議

スローガン

目配り、気配り、支え合いのまち塔野
～福祉救援体制づくりを中心とした福祉のまちづくり～

校区データ

人口
7,751名

高齢化率
32.7%

連絡調整
会議

- 開催頻度／年4回
- 構成メンバー／○校区社協・福祉協力員 ○民生委員 ○自治区会
○介護老人福祉施設 サンライズ北九州 ○介護老人保健施設 サンフラワーズ北九州
○障害福祉サービス等指定事業所 桑の実工房 ○市民センター館長
○区役所保健福祉課 ○区社協
- 主な内容／ 連絡調整会議のなかで、校区を4支部に分け、見守り対象者の近況の報告と、生活課題や地域課題を話し合います(グループミーティング)。各支部長が全体会議で話し合いの結果や課題、対応について発表し、全体で共有しています。

見守り活動を丁寧に報告し、地域全体で課題を共有



班ごとに分かれ話し合い、全体で発表し情報を共有



【福祉施設との連携】

●「バリアフリー事業」

校区内の障害福祉サービス等指定事務所の「桑の実工房」「八幡西共同作業所」と交流会を行い、障害者に対する地域の理解を深めています。

●「ものわずれ予防事業」

介護老人福祉施設サンライズ北九州、介護老人保健施設サンフラワーズ北九州と連携し、認知症についての講座などを行い、地域の認知症の方への対応や予防に努めています。

地域コミュニティバス運行の計画を進める



障害福祉サービス等指定事務所の「桑の実工房」より、使っていない時間帯に所有バスの無料提供の申し入れがあったことをきっかけに、坂が多く、買い物などの外出に困っている高齢者が多いことから、地域コミュニティバス運行計画を立ち上げました。

【アンケート調査】

地域の実態を詳細に把握するために、自治区会の協力を得て、約2,000世帯を対象に住民アンケート調査を行いました。

アンケート結果を参考にどのような支援をしていくのかを話し合い、運行ルートや行き先を決めています。

No.17 中尾校区の作戦会議

スローガン

みんなで安心して暮らせる支え合いのまちづくり
～みんなで創ろう、健康なまちづくり～

校区データ

人口
7,248名

高齢化率
33.5%

連絡調整会議

- 開催頻度／偶数月
- 構成メンバー／
 - 校区社協 ○PTA ○消防
 - 市民センター館長
 - 区役所保健福祉課 ○区社協
- 主な内容／

地域活動や行事の報告・調整を行うとともに、ふれあいネットワーク部会の活動状況や話し合い結果を報告しています。

ふれあいネットワーク部会

- 開催頻度／奇数月
- 構成メンバー／
 - 校区社協・福祉協力員 ○区役所保健福祉課
 - 区社協
- 主な内容／

班ごとに見守り活動報告や地域課題、サロン活動報告などを行い、気になる方がいれば、民生委員につないでいます。

情報共有

ポイント 三世代の交流!



【ふれあいウォーキング】毎年11月3日

まちづくり協議会と共催で実施。中学生がリーダーとなって活動をしています。10年以上続いており、幼児から高齢者まで会話をしながらウォーキングを楽しんでいます。

他にも、新春三社参り、観桜～金山川歩道ウォーキング～なども三世代で行っています。

地区民児協、まち協、自治区会、PTA、健康づくり実行委員などさまざまな団体と連携・協力し地域活動を行っています。

とくに、三世代交流事業には力を入れており、三世代交流サロン（ファミリーバドミントン）・ふれあいウォーキング・餅つき大会のほか、大人としゃべり場などを行っています。

人と人とのつながり、子どもの社会性の教育、心と体の健康向上を地域全体で目指しています。

【三世代交流サロン ファミリーバドミントン】

《日時》毎月第2火曜日 19:00～21:00

《場所》中尾小学校体育館

《対象》地域住民

《料金》無料 ※予約連絡など不要



学びの場!

【福祉協力員研修】

福祉協力員がふれあいネットワーク活動について学び、見守り活動や助け合い活動の基本を再確認しています。

班別(町内会単位)で年長者交歓会を年に数回開催しており、地域の皆さんが楽しめるように、「五目お手玉」のルールを学び、実技体験を行いました。



平成27年度介護保険法改正に基づく

八幡西区の生活支援体制整備事業のイメージ

事業の大きな「ねらい」

- 地域の高齢者が支え合い活動などへ社会参加することを促す
- 地域の支え合い活動などを充実・強化・創出する
- その地域ならではの支え合いの仕組みづくりを推進する

まとめると「地域づくり」

校区の作戦会議

地域の活動者、つなぐ活動者、支援の活動者が「ワイワイガヤガヤ」話し合う場(連絡調整会議)



参考用語集

★理学療法士・・・P.5

身体に障害のある方に人に対し、日常生活における基本動作・運動能力回復・維持のためマッサージや体操、温熱・光線・電気療法・スポーツなど物理的な治療を用いながらリハビリ指導や助言を行う者。

★作業療法士・・・P.5

障害のある方に手芸や工作等さまざまな活動を用いて、諸機能の回復・維持および開発を促す作業活動を通して治療、指導、援助を行う者。

★ウェルクラブ活動(次世代地域福祉活動者育成事業)・・・P.6

地域の子ども達がふれあいネットワーク活動を中心とした福祉活動に参加し、次世代を担う地域福祉活動者の育成と福祉の風土づくりを図る活動。

★特別支援学校・・・P.8

知的障害、肢体不自由または病弱の児童に対して、小学校、中学校または高等学校に準ずる教育を行う学校。

★脳トレ・シナプソロジー・・・P.12

「2つのことを同時に行う」「左右で違う動きをする」といった普段慣れない動きで脳に適度な刺激を与え、活性化を図る。

★ソフトエアロビクス・・・P.13

初めてエアロビクスに挑戦される方、足腰に負担をかけたくない方向けの優しいエアロビクス。ダンス要素も取り入れながら無理なく、楽しく体力づくりを行うもの。

★特別支援学級・・・P.14

比較的軽度の障害のある児童生徒のために、必要に応じて小学校や中学校に設置している学級。

★児童養護施設・・・P.14

保護者のいない児童、虐待を受けている児童、家庭環境や様々な事情により家庭での養育が難しい児童を入所させて養護を行う施設。